

# 東京都教育委員会 授業改善推進拠点校事業

「学びに向かう力等に関する意識調査」結果を生かした授業改善について

## 府中市立府中第二中学校の取組事例

未来を切り拓く**自走力**の育成  
～探究心と学びを生み出す**学習環境デザイン**～

# 1年目（始動期）の取組

# 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

## 「学びに向かう力等に関する意識調査」

### I 各教科の授業の内容に対する理解の程度

	国語	社会	数学	理科	英語
よく分かる	34.5	37.6	38.9	35.2	41.8
どちらからといえば分かる	56.3	47.8	44.5	49.4	39.6
どちらかといえば分からない	7.4	11.4	13.5	12.2	13.3
ほとんど分からない	1.8	3.1	3.1	3.1	5.4

## 令和6年度全国学力・学習状況調査

(%)

国 語	R6府中二中	(R6東京都)	(R6全国)
平均正答率(%)	64	61	58.1
A 話すこと・聞くこと	66.7	62.9	58.8
B 書くこと	67.4	67.9	65.3
C 読むこと	54.2	50.8	47.9

数 学	R6府中二中	(R6東京都)	(R6全国)
平均正答率(%)	60	57	52.5
知識・技能	70.4	67.3	63.1
思考・判断・表現	43.9	39.2	33.2

# 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

## 「学びに向かう力等に関する意識調査」

### 2 各教科の学習を得意と感じる意識の程度

	国語	社会	数学	理科	英語
得意	14.6	18.9	20.9	24.6	27.4
どちらかといえば得意	37.3	32.9	30.9	37.0	30.5
どちらかといえば得意ではない	36.4	31.4	26.4	25.5	25.1
得意ではない	11.6	16.8	21.8	12.9	17.0

(%)

## 令和6年度全国学力・学習状況調査

### 国語 ○正答率から見る府中市立府中第二中学校の課題

〈課題と考えられる問題〉1— 学校正答率62.6%（都正答率66.3%（-3.7ポイント）、国正答率63.2%（-0.6ポイント））

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることに課題

【唯一都かつ国を下回った問題】

### 数学

〈課題と考えられる問題〉6(2) 学校正答率37.4%（都正答率41.7 %） -4.3ポイント

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題

# 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

## 「学びに向かう力等に関する意識調査」

### 3 学習の動機

- (1) 分かることやできることが楽しいから。 (2) しっかり考えられるようになりたいから。  
(3) 将来の仕事や生活に役立つから。 (4) 友達や先生と学習するのが楽しいから。

	(1)	(2)	(3)	(4)
当てはまる	38.4	38.4	47.1	29.4
どちらかといえば当てはまる	39.7	43.1	36.0	40.5
どちらかといえば当てはまらない	14.6	12.8	12.0	21.6
当てはまらない	7.2	5.7	4.9	8.5

(%)

# 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

## 「学びに向かう力等に関する意識調査」

### 4 学習の進め方

粘り強く進める

(1)確実にできるようになるまで、くり返し練習している。

工夫しながら進める

(5)どうやつたらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている

(7)学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。

理解しながら進める

(13)学習していて分からぬ言葉があれば、すぐに調べるようになっている。

	(1)	(5)	(7)	(13)
当てはまる	12.9	18.8	21.8	24.6
どちらかといえば当てはまる	48.5	43.4	43.7	40.5
どちらかといえば当てはまらない	32.1	29.5	26.9	27.0
当てはまらない	6.5	8.3	7.6	7.9

(%)

## 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

- | 1 自己肯定感、自己有用感が低い傾向にあること
- 2 「何のために学ぶのか」という学びの目的を明確にしていく必要があること
- 3 自らを振り返り、自己の学びを調整しながら、主体的に学習に取り組む力を高めていく必要があること

## 1 学力調査等に基づいた自校の課題分析

### 研究主題

未来を切り拓く**自走力**の育成  
～探究心と学びを生み出す**学習環境デザイン**～

### 目指す生徒像

未知の課題に対して他者と協働してその状況  
に合った**最適解**を導き出せる生徒

## 2 課題の解決に向けた手立ての明確化

### 主題の視点① 「自走力」

○自分で考え目的に向かってやることを決め、行動していく力。自走するためには、自分が今後どのようにしていくべきか、どこに向かって行動していくのかを自分で考える必要がある。

○自立と自走の違い

自立：ゴールや手段（正解）が明確な教育

自走：ゴールや手段（正解）を考えさせる教育

#### 二中の「自走力」のペダル（PEDAL）

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| ①Proactive  | 未知の課題に興味をもつ                |
| ②Explore    | 課題に対して自分に合う方法で<br>主体的に探究する |
| ③Diversity  | 相互に肯定し、他者と協働する中<br>で考えを深める |
| ④Assessment | 自己を振り返り、適切なメタ認知<br>ができる    |
| ⑤Learn      | 学びをつなげ、生かす                 |

### 主題の視点② 「学習環境のデザイン」

○学習者を「能動的に学ぶ存在」として捉えながら、学習環境を「活動（どんな目標・タスク・ルール・プログラムを通して学ぶか）」「空間（どんな建築空間・レイアウトで学ぶか）」「共同体（どんな人たちとどんな関係性で学ぶか）」「人工物（どんな道具・教材・素材を活用して学ぶか）」という四つの要素に分解し、結びつけながらデザインしていく考え方。

#### 二中の「学習環境デザイン」の考え方

- 教室のレイアウトなど、学習者のいる空間をどう設定するかだけでなく、授業の内容・活動、教材、人といった学習者を取り巻く環境を、探究心と学びの創出に向けて構築していく。
- 学習者（生徒）・授業者（教師）ともに学習環境デザインの一部であり、協働して授業を作る。9教科の授業に限定せず、道徳や特別活動、総合的な学習の時間など教育課程全体でデザインを工夫する。

## 2 課題の解決に向けた手だての明確化

### 二中の「自走力」のペダル(PEDAL)

「**自走力**」は、決して生徒のみが身に付けていくものではなく、授業者である教師も自ら授業改善に向けて自走する力が必要である。自転車が二つのペダルで進むように、生徒と教師が力を合わせ、互いに支え合いながら成長していくことをイメージしている。

#### 生徒の自走

生徒一人一人が、自らの学びを積極的に推進し、目標達成に向けて努力する。

#### 教師の伴走

教師は、授業改善の考え方や方法を身に付け、生徒の学びと成長をサポートしていく。

#### 共走の力

生徒と教師が共に力を合わせ、互いに学び合うことで、より良い学びの場を創造する。



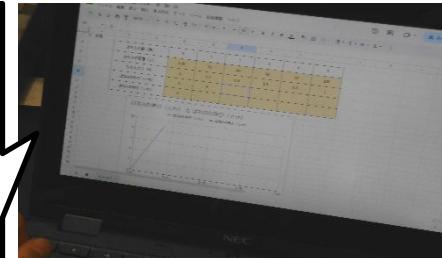
### 3 手だての実践と検証

#### 各教科の手だてと授業の実践例

- ①【自己肯定感、自己有用感の向上】⇒ 協働して考察する機会の確保
- ②【学びの目的の明確化】⇒ 課題解決学習と振り返りの活用
- ③【主体的に取り組む力の育成】⇒ インプットする場面とアウトプットする場面の明確化と循環

##### ①理科【小単元 力のはたらき：力の大きさとばねの伸び】

実験結果から描かれるグラフにより、力とばねの伸びの規則性を考察し、分かりやすく記述することを重視。タブレットを活用し、実験結果を入力すると自動的にグラフが生成されるシートを提示することで、実験結果を協働して考察する、結果を分かりやすく表現する時間(機会)を確保している。



##### ②社会【単元 日本のさまざまな地域「東北地方」】

単元ごとに問い合わせを設定し、仮説立案→考察→結論という順で振り返りシートにまとめている。シートには、様々な思考ツールを活用して、考えを表現するとともに、「この単元で学んだこと・次の単元でどう活かせるか」を記述し、学びのつながりを意識する形式にしている。



##### ③英語【単元 自分の好きな人を紹介しよう (Unit6 Goal)】

今までに習った表現を用いて、自分の好きな人をスライドを活用し、わかりやすい表現でみんなに伝える内容。インプットに重点的に授業をしながら、基礎的な力が付いたら、話す、やり取りをするなどのアウトプットにも授業内で行い自分が言いたいことを伝える活動に取り組んでいる。



## 4 成果と課題

### 成果 ⇒学びの深化・生徒自身で学びの価値づけや学びをつなげる姿勢

- ・協働することによって、生徒の学びが深まった。
- ・アウトプットする活動や課題解決学習、その振り返りを行うことで、生徒自身が学びを価値づけ、次につなげようとする姿勢が見られた。

### 課題

- ・授業改善に向けた二中共通の具体的施策の策定  
⇒生徒の「自走力」(自ら走る力)の原動力となる学びへのエネルギー・力をどう育んでいくかに焦点化し、明確なビジョンをもって授業改善を図れるように進める。
- ・授業改善に向けた計画的・継続的な検証の場の設置

# 2年目（試走期）の取組

# 1 課題の解決に向けた手立ての焦点化

P 未知の課題に興味をもつ

E 課題に対して自分に合う方法で主体的に探究する

D 相互に肯定し、他者と協働する中で考えを深める

A 自己を振り返り、適切なメタ認知ができる

L 学びをつなげ、生かす

自走する学習者を目指して

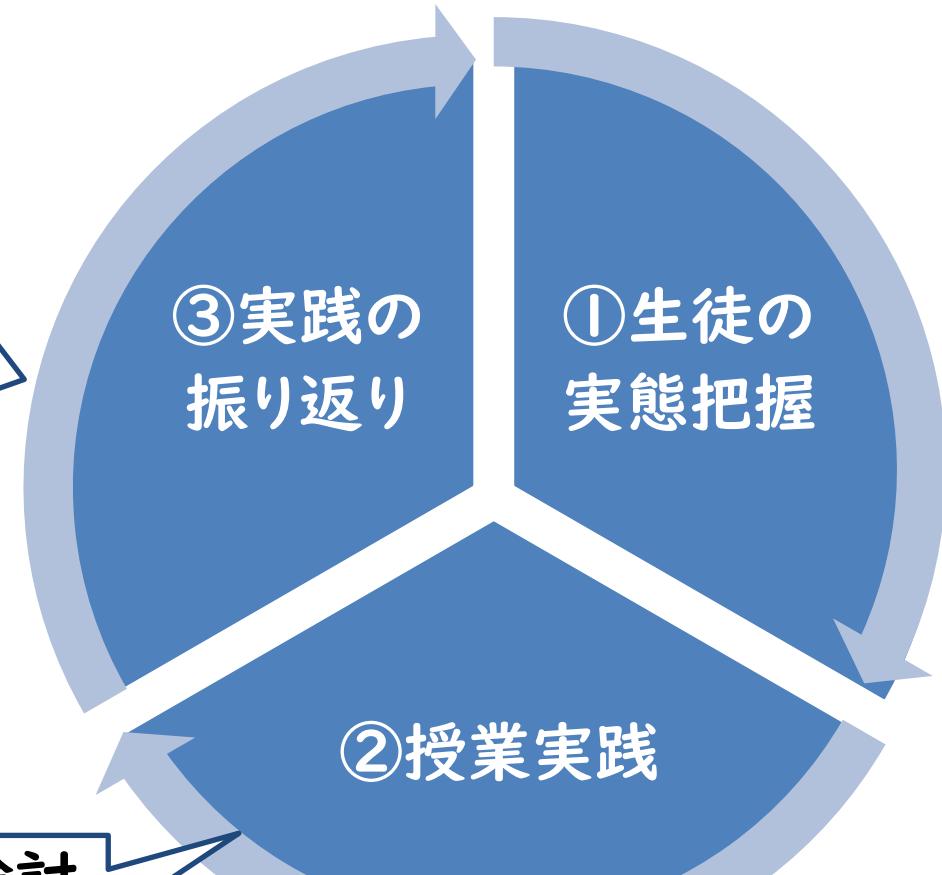
① 基本的な知識を身に付ける。

② 知識と知識、経験と知識を結び付ける。

③ 学び方を学ぶ。

# 1 課題の解決に向けた手立ての焦点化

- 「学びに向かう力等に関する意識調査」
- 生徒に対するPEDALに関する意識調査
- 教員へのアンケート



- 教科部会による指導案検討
- 研究協議

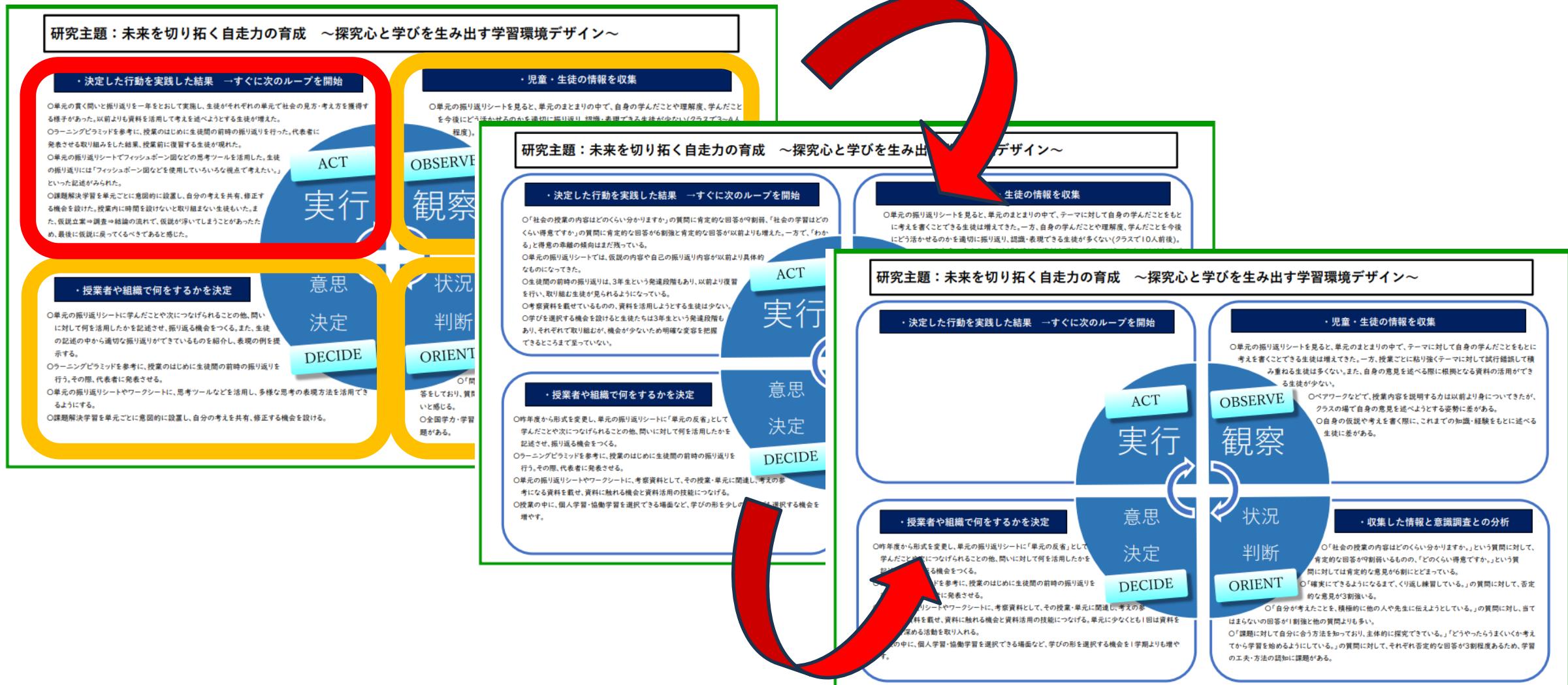
4月、7月、10月に下記①～③を実施

- ① 生徒アンケート：「学びに向かう力等に関する意識調査」
- ② 教員アンケート
- ③ OODAループを活用し、①②を踏まえて授業の見直し

- 学力調査や「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析、授業観察等
- ↓
- OODAループの作成

# 1 課題の解決に向けた手立ての焦点化

## OODAループの活用例



## 2 手だての実践と検証

実践例 国語科第1学年「話の構成を工夫しよう～一枚の写真をもとにスピーチをする～」

**【本時の目標】**教師の発表例や友達の題材選びや構成メモを参考にし、目的を明確にして自分が伝えたいことが効果的に伝わるようなスピーチの構成を考える。



**P** 教師の二つの発表を聞き、良い発表について考える。

**E** スピーチの目的を明確にし、内容・構成・提示資料を考える。

**A** 見通しをもち、調整しながら学習を進めるための振り返りカード

**E** 目的達成までの手順は生徒に委ねる。（手書きかPCか等）



目的を明確にして、スピーチの構成を考える。	【第二時】	6/2	あなたのスピーチの目的は何ですか。 ウェイクボードの魅力楽しげと伝えろ 目的に合う発表にするために、どんな工夫をしますか。 視点：内容、構成、提示資料とタイミングなど 聞き手目標でできること意識する。ウェイクボードを知らない人でも「やったみたい！」と思えよう、「初心者でも楽しめ！」など安心感を伝える。初めて立ったときの楽しさや水の上と滑る気持ち良さなど自分ががうう語れる体験を伝えろ
		6/2	あなたのスピーチのポイントや見どころは何ですか。 実際にやってみてどこが楽しかったのか、どんな気持ちだったのかをもうここで聞かせると、人にわくわくする感覚がしてもらえる。まずはとにかく自分の声の大きさを大きくしたり、また強弱とつくりで聞く人が分かりやすくなるようにしてみる
スピーチの内容を決定し、練習する。	【第三時】	6/3	発表の練習をしてみて、うまくできたと思うことは何ですか。 ゆっくりはっきり言えたこと、楽しめた自分の言葉で伝えられ笑顔で話したことなぜ、うまくできたと思いますか。
		6/3	何回も練習でイメージを描いていくところから。本番をイメージし実際に反応しながらどうしてで意識しながら話すから。 発表の練習をしてみて、うまくいかなかったことは何ですか。 体の動きやジェスチャー少なく身體か下を向いてしまう。

## 2 手だての実践と検証 実践例 美術科第2学年「篆刻」

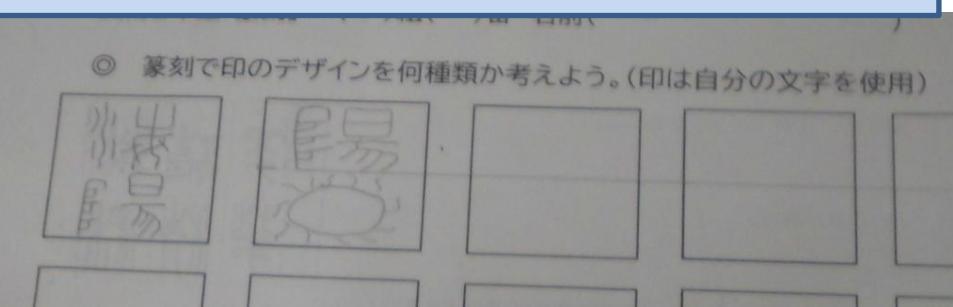
### 【本時の目標】

篆刻の用語や彫り方の種類などについて学び、印のデザインを考える。

P 篆刻の用語や彫り方の種類などの説明を聞く



E 自分なりの印面のデザインを考えるために、学習端末等で文字を調べる



D 他者の作品を鑑賞して、工夫している箇所や良いと感じた点を感じ取る

## 2 手だての実践と検証 実践例 保健体育科第2学年「体育分野 E球技 ネット型 バレーボール」

### 【本時の目標】 スパイクを習得しよう



P・D スパイクでのボールの打ち方、腕の動かし方について生徒同士で考え、教え合う

D グループ別学習を行い、トスに合わせたジャンプのタイミングについて生徒同士で考え、教え合う



D 「せーのっ！」という声かけて、タイミングを取りやすく工夫している  
L セッターの声かけて跳ぶことでタイミングを合わせて跳べている

A・E 自らの動きについて振り返るとともに、生徒同士で見つけたポイントやアドバイスを整理するための振り返りシート



回	個人目標の設定と自己評価 S・A・B・C・D		GOOD (良かったこと、成果など)、 BAD (うまくいかなかったこと、課題など)、 NEXT (GOOD, BADを踏まえ、次回意識したいこと)	仲間への（からの）アドバイス <small>※アドバイス「された」場合は「した」を消してください。 逆の場合も同じ。</small>	個人目標の設定と自己評価 S・A・B・C・D			GOOD (良かったこと、成果など)、 BAD (うまくいかなかったこと、課題など)、 NEXT (GOOD, BADを踏まえ、次回意識したいこと)	仲間への（からの）アドバイス <small>※アドバイス「された」場合は「した」を消してください。 逆の場合も同じ。</small>		
	月/日	本時の個人目標			月/日	本時の個人目標	達成度				
3	9/9	チームで協力し ラリーを長くつなぐ	B	GOOD…グループの人へアドバイスをした。落地下地点に速く入り、誰がラリーを返すかを伝えた。 腰を使ってレシーブすることができた。 BAD…チームで考えを共有する時間がなかった。動き出しが遅くレシーブができないことがあった。 声掛けや工夫(コートの人の配置)がなかった。 NEXT…リーダーを中心でグループで意見を共有する場所をしっかりと設けてほしい。 アンダーとオーバーを使い分け、狙った地点にボールを返せるようになっていくたい。	オーバーのレシーブがとても上手だった ためラリーでオーバーを使ったほうが安定すると思うと（ ）にした	3	9/16	ラリーをとにかく続けよう！！	B	GOOD…やっていた気付いたことといふか私がラリーを続けるために行った一つの工夫は、アンダーとオーバーだったらアンダーは方向を決めることが難しくてうまくできないので成功する確率が高いオーバーでボールを返す。あるいは名前で呼んだり立ち位置も三角形を作るようになした。（前一人、後ろ二人で後ろのどちらから取って前の人とパスをする作戦） BAD…腰の使い方で腰を曲げて落としたときに腰が痛くなるので腰を伸ばす。腰を伸ばすと腰が痛くなるのが原因で腰を曲げてしまう。腰を曲げると腰が痛くなるので腰を曲げないようにする。 NEXT…今以上に声を掛け合い、より腰よく通せるようになりたい。いい部分（立ち位置など）はそのままでもな部分を話し合いを重ね、改善していくといきたい。	アンダーもオーバーも屈伸をするときのように膝をよく曲げること、落下地点に入る事が大事。他にもアンダーは面をつくって当てる。面の方向により飛ぶ方向も変わる。オーバーは頭の上からへんで三角形を作って内側から外側に動かして打つ。手首を柔らかくして使うといい。
4	9/19	スパイクの動きの理解をし ポイントを捉え実践する	B	GOOD…スパイクの動きや踏切、動きなどの理解ができた。また追加の気づきとして直上バスの際に上手にできないことに悩んで上手な人を見るとボールをなるべく高く上へ上げて余裕がうまれているように見えた。他の人はスパイクの実践で気づいたこととしてボールの最高到達点のさき、自分のジャンプも最高到達点(以降)の動きがほしいといふ。→自分はトマ(?)を上げてくれる人がボールに触れた瞬間に「踏切が広い!」 BAD…スパイクで左腕(引かざしない方)の動きが軽くしょっぱいのタイミングとともにバラバラだった。→左腕の動きは踏切のあとどのような動きになっているのか次回手な人を見て参考にする。 NEXT…スパイクのまず踏切やジャンプのタイミングを踏み反省点やその改善策を試みつつ課題を解決する。	交流は特になし。	4	9/19	スパイクのポイントを抑えよう！！	B	GOOD…二回ほどうまくコート内にいれることができた！三歩で両足ジャンプをするけれどこの二歩目で手を後ろへやり、手で助走をつけて三歩目で一気に振り上げて構えの姿勢（ティクバック）を取るのやりやすかつた気がする。でもまだ足が長い。足が長いと足が伸びなくて足が届かない。足が届かない=足が届かない=BAD…何回も失敗しました。ティクバックと飛ぶタイミングを合わせるのが難しくてうまく当たれることはできないうこと。自分の課題だと思います。あとは焦らずきてボールに当てるこしあなことを考えていいので方向転換？ができるところが自分の課題だと思います。 NEXT…もう一度ポイントを見てして一つ一つ意識して少しズツスパイクに近づけるようにしたいです！次回のラリー？三人三人为やると言っていたものもある程度続けてから打てるようになります！（無理だったらボールを高く上げてサポートする例になります！）	右利きの人は右足から右式参のリズムで両足ジャンプをする。高く飛んで上から叩きつける。ティクバックをしっかりして横向きをうまく作る。ジャンプと打つタイミングを合わせる。 （ ）が言っていた

# 教育課程全体での取組

# 1 学習環境デザイン



## 教室環境のUD化

教室前面の掲示物の内容や配置を全教室で統一した。

二中の学習 目指す生徒像

**目標・ゴールに向かって自走できる生徒**

「自走」とは…自分で考え、目的に向かってやることを決め、行動していくこと。

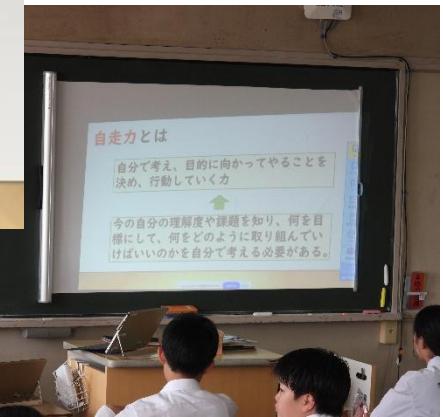
自走するために必要な力「PEDAL」

Proactive	未知の課題に興味をもつ
Explore	課題に対して自分に合う方法で主体的に探究する
Diversity	互いに認め合い、仲間と協働する中で考えを深める
Assessment	自己を振り返り、自分の理解度や課題を知る
Learn	学びをつなげ、生かす



## 生徒と共に自走する

ガイダンスや「PEDAL」のポスターを通して、目指す生徒像を生徒と共有した。



学習に集中しやすい環境整備への意識と習慣化

## 2 学校生活改善会議

月に1度、校長、生徒指導主任、生徒会長、各学年自治委員長で学校生活について話し合う。



### 生徒の声

- 自分たちが直接聞いた生徒の声を伝え、検討できていいい。（生徒会長）
- 夏のポロシャツ着用について話し合った。周りの人の声を届けることができたし、決定して喜んでいる人もいたので良かった。校則という決まりはあるが、その中でも過ごしやすいように検討できてよかったです。（2年自治（学級）委員長）
- 他の学年の委員長の話を聞いて参考になり、自分も頑張ろうと思える。（1年自治（学級）委員長）

当事者意識を育む

### 3 日的な手帳の活用

2025 6 June 水無月	23 Monday	24 Tuesday	25 Wednesday	26 Thursday	27 Friday	28 Saturday	29 Sunday
M T W T F S S	△教 ✓地理7 P26~31 □	✗ 英 ✓英単語覚え ✓宿題	✓国 ✗ 数7 20A~25B 28A~30B	✓国 ✓英 マスト.たてよこ □	✗ 社 △数7 20A~25B 28A~	✗ 国、英・理 ✗ 理7. ✓数7 続き ✓英語トレ	□国、社 ✓地理まとめ ✓地7 P24~25
7 起床	7	7	7	7	7	7	7
8 保: 開本問題用紙 英ペン	1 教: いつもの 2 國: スピーチ発表	1 数: いつもの 2 國B: 文法セット	1 理: いつもの 2 國B: 文法セット	1 数: いつもの 2 理A: タ	1 社、いつもの 2 國A: ふり返りカード	1 準備会 2 英会話	1 準備会 2 英会話
9	3 美: いつもの 4 英: いつもの	3 家: いつもの 4 英: いつもの	3 英A: スピーチ発表	3 理B: タ	3 英B: いつもの 4 休: 水泳セット	3 英: いつもの 4 技: いつものCB	3 地理まとめ 4 お出かけ
10	5 数: いつもの 6 学: 全校集会	5 英: タ	5 数: いつもの 6 國: タ	5 社: いつもの 6 総: CB	5 休: なし	5 休: なし	5 休: なし
11	7 部活	7 部活	7 部活	7 部活	7 部活	7 自由時間	7 自由時間
12	8 ピアノ	8 休む	8 休む	8 休む	8 休む	8 親友と 9 ポートレ	8 休む
13	9 夕食・お風呂	9 ↓	9 ↓	9 ↓	9 ↓	9 休む	9 休む
14	10 教 11 地理7 P26~31	10 英 11 英単語覚え	10 宿題 11 英単語覚え	10 数7 20A~25B 28A~30B	10 社 11 國マスト.たてよこ	10 数、英・理 11 地理7 P24~25 12 國・社	10 数、英・理 11 地理7 P24~25 12 國・社
15	12 就寝	12	12	12	12	12	12
16	13 学習: 95分	13 : 100分	13 : 90分	13 : 120分	13 : 75分	13 : 130分	13 : 170分

## 生徒の声

計画を立てることで勉強しようという意識が高まり、小学校の時より進んで勉強するようになりました。

先に勉強の計画を立てることで、すき間時間にできることを考えられるようになりました。

(1年生徒)

自己調整力、自己指導力を育む

## 4 道徳授業地区公開講座

共通テーマ：「答えのない問い」「答えが一つではない問い」



- 事前に収集した保護者の意見や参観した保護者の意見も含めて多様な考えに触れることで、考え方の深化や変容が見られた。

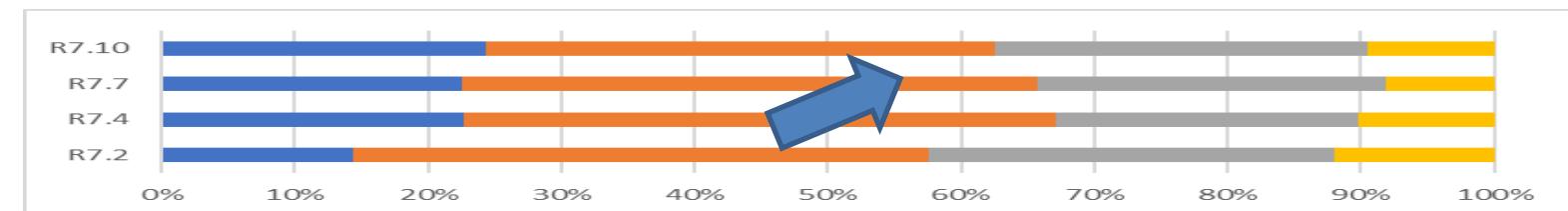
- 保護者、地域の方、教員とで、育てたい生徒像を共有した。

大人も共に考え、学び、成長する

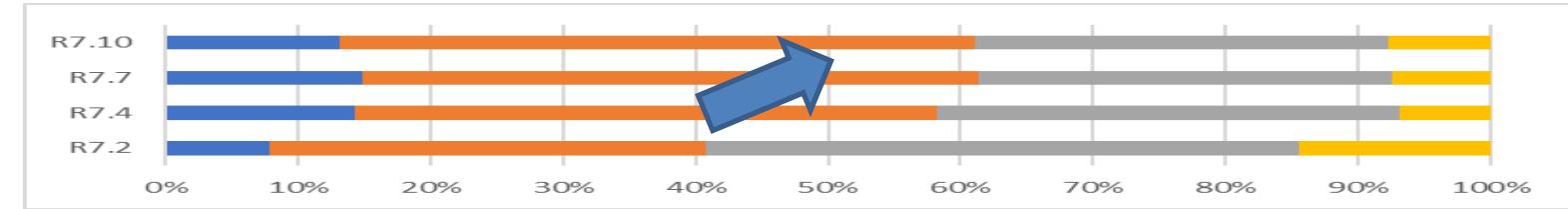
# 2年間の成果と課題

# 1 成果 自走のための「PEDAL」に関する生徒アンケート【第3学年】

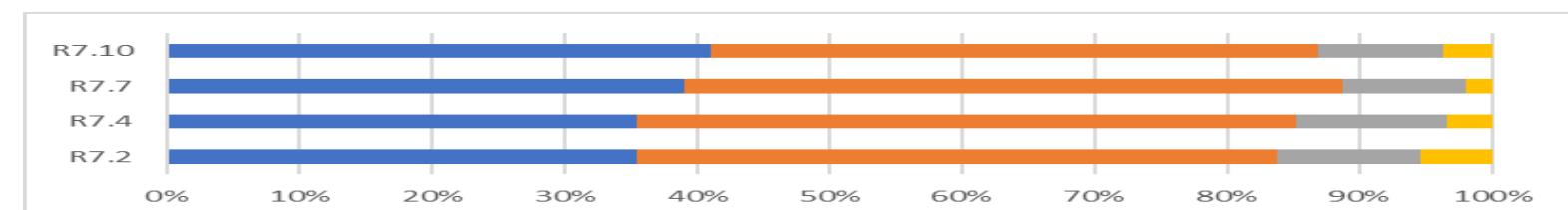
P 自分の知らない課題に対して興味をもつことができる。



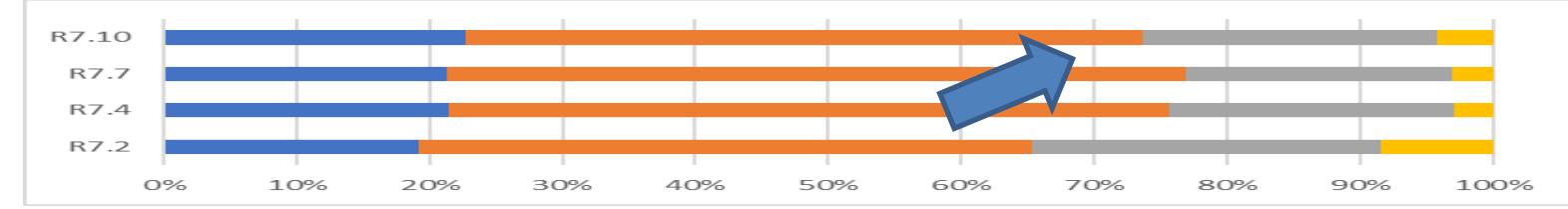
E 課題に対して自分に合う方法を知っており、主体的に探究できている。



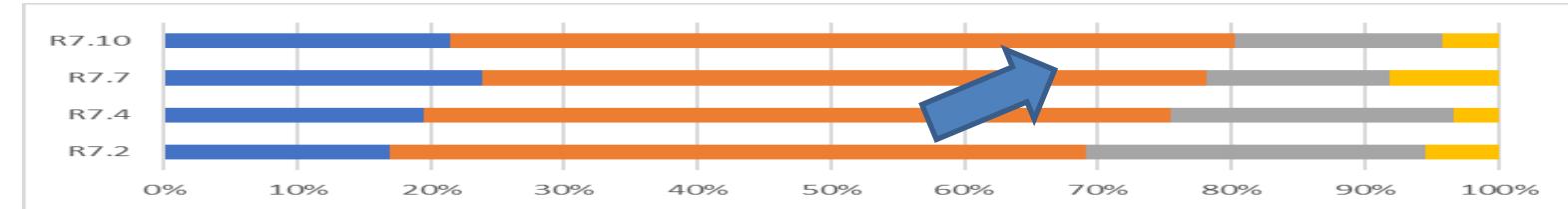
D 授業などで他者と意見交換をする際、互いを肯定しており、自分の考えを深めることができている。



A 自分を振り返る機会があり、適切に学んだことを把握することができている。



L Aを基に、学んだことを別の単元や教科に生かすことができている(生かそうとしている。)。

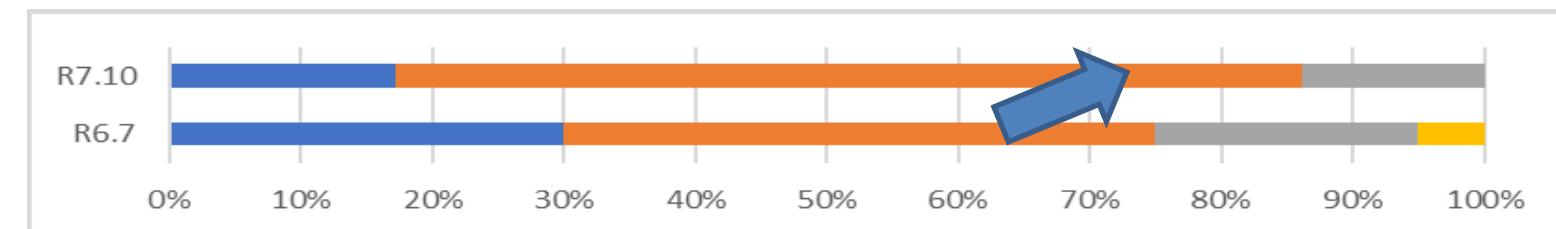


■よく当てはまる ■当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない

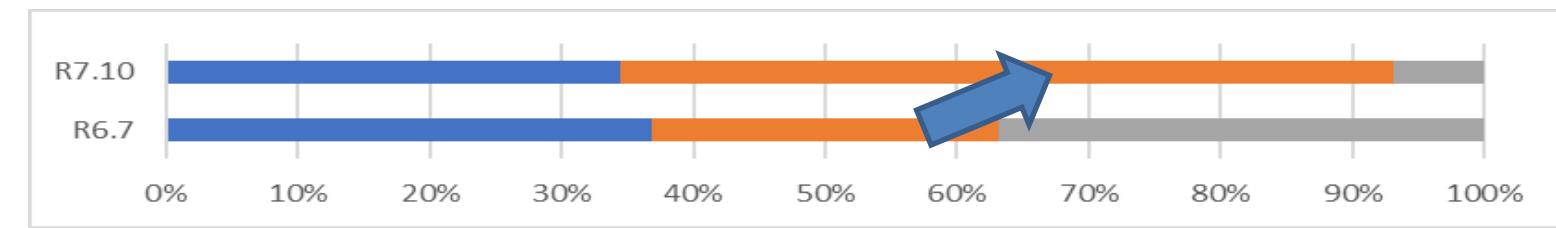
# 1 成果

## 自走のための「PEDAL」に関する教師アンケート

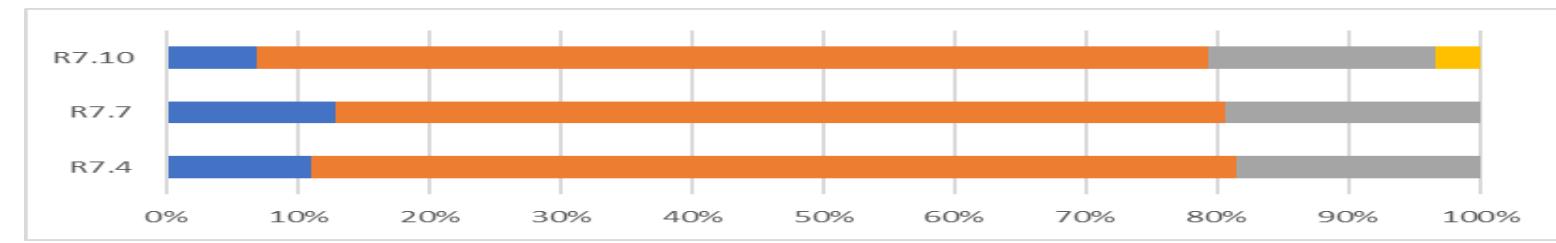
(1) 日頃の授業で、生徒が学習を見通し、振り返る場面をどのくらい設定しているか。



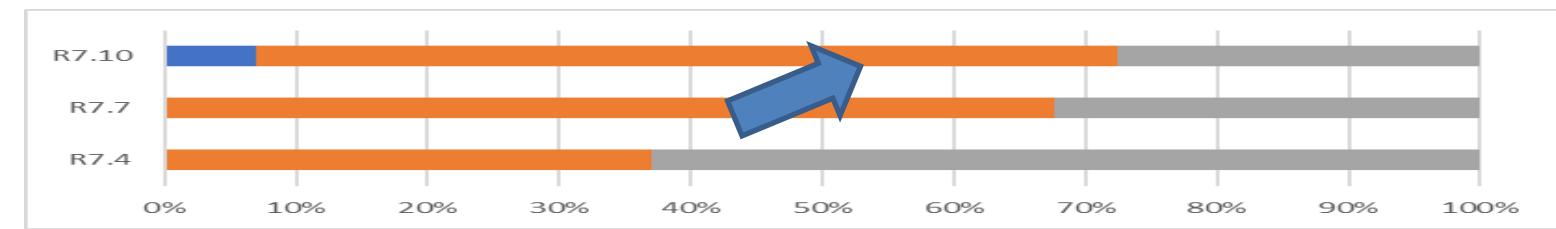
(2) 日頃の授業で、課題解決に向けて生徒が考え、対話する場面をどのくらい設定しているか。



(3) 研究テーマの取組に対して、授業改善について自身の変化はあるか。



(4) 研究テーマの取組を行う中で、生徒の様子に変化は見られるか。



■よく当てはまる ■当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない

# 1 成果

## 生徒及び教師へのインタビュー

### 生徒の声

E 数学では、課題に対して自分で取り組む人も相談しながらやる人もいて、先生に聞いてもいい。聞きやすい雰囲気があり、苦手をすぐ解決できるのですごくいい。

D 話合いによって自分の考えがはっきりしたり、自信をもてたりする。話合いはグループが決まっているよりも自分で選んだ人が話しやすい。

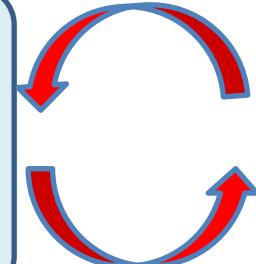
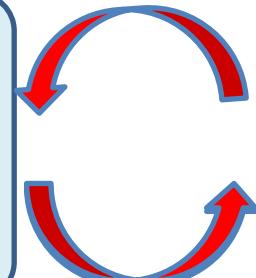
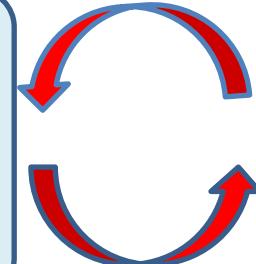
A 実技教科では、振り返りシートにできなかったことをメモしておくと次回先生に忘れずに聞けて良い。社会では、振り返りシートを見ればテストの対策ができる。

### 教師の声

【数学】これまで意識できていなかった方法を選択させること、それぞれの解き方を価値付け、吟味させていくことで、より学習への意欲が高まることが分かった。

【国語】協働学習は、固定のペアや班だけでなく、選んだ学習課題や目的に応じて生徒が話し相手を決められるようにした。一人で考えるという選択肢も与えた。

【社会】振り返りシートで昨年度より、メタ認知につながる欄を設け、何を学び、次にどう生かしたいかを記述させている。生徒の記述内容に良い変化が見られる。



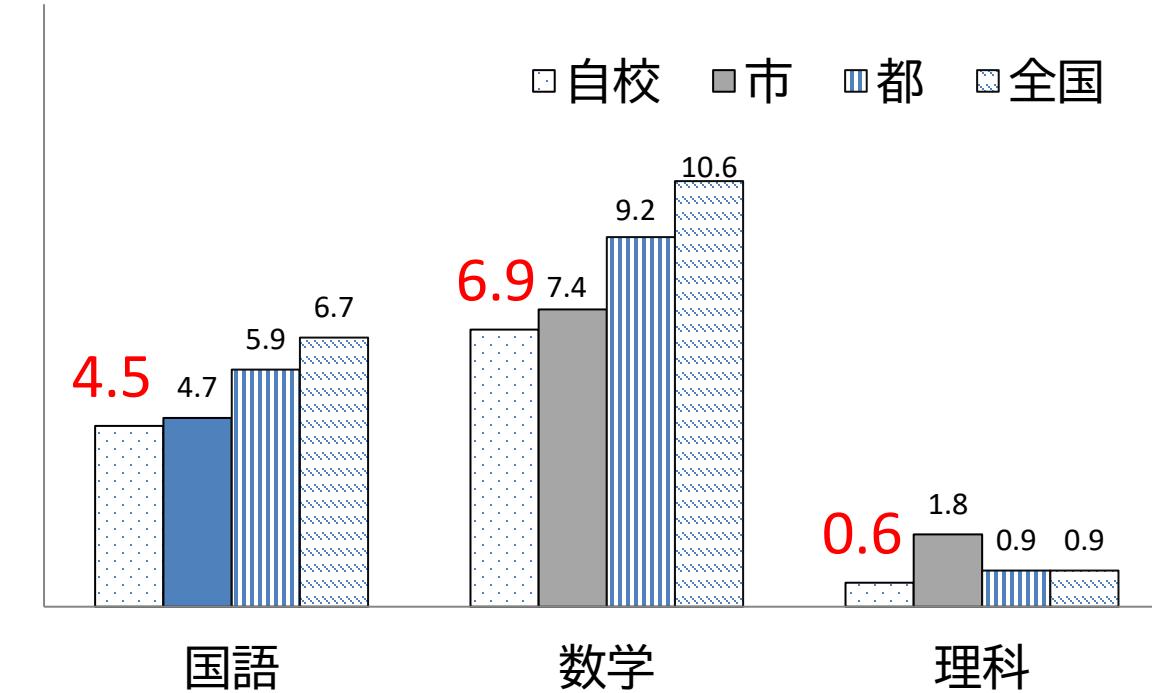
# 1 成果

## 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

国語	本校	東京都	全国
平均正答率 (%)	60	57	54.3
A 話すこと・聞くこと	57.7	55.0	53.2
B 書くこと	61.6	56.5	52.8
C 読むこと	66.1	65.0	62.3

数学	本校	東京都	全国
平均正答率 (%)	52	53	48.3
知識・技能	55.8	58.3	54.4
思考・判断・表現	46.3	45.4	39.1

各教科の無解答率(%)  
(全設問の無解答率の平均値)



■国語は全国・都を上回っている。数学は全国を上回り、都より1ポイント低い。

■数学は、後半の問題の正答率が都及び全国と比べて特に高い。

■各教科の無解答率が都及び全国と比べて低い。

基礎学力の定着  
粘り強さ

- 主体的な課題解決のためにには基礎的な知識・技能の定着が不可欠であるが、基礎基本の定着が不十分な生徒が一定数いる。  
→基礎学力の定着
- 自分の課題が分からない、自分に自信がないという生徒がいる。  
→メタ認知能力、自己調整力の育成
- 授業内や学習直後の理解度と、時間が経ってからの定着状況に差がある。  
→自走力の育成

### 3 今後に向けて

### 生徒も教師も自走していくために

例えば…

授業では意見共有も活発で、ワークシートや振り返りカードもよく書いていて、学習内容を理解できている様子

定期考査で、思ったよりできていない。

教師

生徒が勉強しないから…

自走

生徒の実態から指導や評価の方法を見直すきっかけに

生徒

問題が難しかったから…

自走

勉強時間、学習方法を見直し、改善を図るきっかけに

### 3 今後に向けて 生徒も教師も自走していくために

#### 目指す生徒像

未知の課題に対して他者と協働してその状況  
に合った**最適解を導き出せる生徒**

##### 二中の学習 目指す生徒像

###### 目標・ゴールに向かって**自走**できる生徒

「自走」とは…自分で考え、目的に向かってやることを決め、行動していくこと。

###### 自走するために必要な力「PEDAL」

Proactive	未知の課題に興味をもつ
Explore	課題に対して自分に合う方法で主体的に探究する
Diversity	互いに認め合い、仲間と協働する中で考えを深める
Assessment	自己を振り返り、自分の理解度や課題を知る
Learn	学びをつなげ、生かす

#### 目指す生徒像



#### 求められる教師像

### 3 今後に向けて 生徒も教師も自走していくために

## 自走力

- P 未知の課題に興味をもつ
- E 課題に対して自分に合う方法で主体的に探究する
- D 相互に肯定し、他者と協働する中で考えを深める
- A 自己を振り返り、適切なメタ認知ができる
- L 学びをつなげ、生かす

- 自走力として定義した五つの力の一体的な向上を目指し、授業改善の「質」を高めていくこと。
- 教師の授業改善の視点を生徒と共有し、生徒を信頼し、生徒に委ねる場面を増やしていくこと。
- 授業で学んだ知識や技能、学び方を、生徒自身が他教科や実生活につなげていく力(L)につなげていけるようになるための方策を、生徒とともに考えていくこと。

# 東京都教育委員会 授業改善推進拠点校事業

「学びに向かう力等に関する意識調査」結果を生かした授業改善について

**府中市立府中第二中学校の取組事例**